

道東自動車道 白糠IC-阿寒IC 釧路外環状道路 釧路西IC-釧路東IC 平成27年度開通予定

現在、整備が進められている道東自動車道白糠IC-阿寒IC間（14キロメートル）と釧路外環状道路釧路西IC-釧路東IC間（10キロメートル）が平成27年度中（平成28年3月末まで）に開通する予定です。
これらの開通により、札幌市-釧路市間は現在より16分短縮され4時間27分で移動できるようになり、釧路市-釧路町間も混雑する市街地を通らず円滑に移動できるようになります。

問合せ 市役所道路河川課建設担当（☎31-4599）



※両区間の開通日が決まり次第、市ホームページ等でお知らせします。

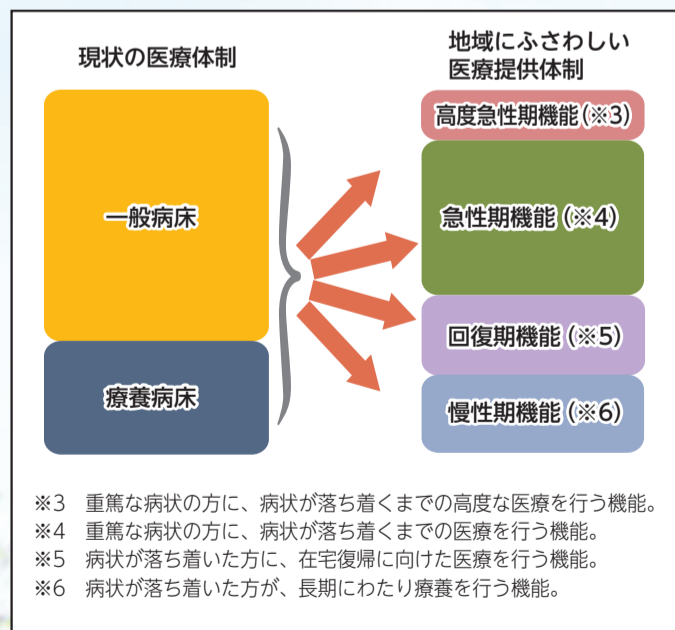
地域医療の未来を見据えた市立釧路総合病院の役割

人口減少・高齢化が進む中、「団塊の世代」の方々が75歳以上となる2025年（平成37年）を見据え、国の医療政策は大きく変わろうとしています。持続可能な社会保障制度を確立するため、効率的で質の高い医療提供体制の構築が求められている中、北海道でも二次医療圏（※1）別に、どのような医療機能（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）が必要とされているのかという国の予測を基にし、それぞれの地域の実情に沿った医療提供体制の将来像の検討を進めています。こうしたことから、市立釧路総合病院としても、釧路二次医療圏（※2）の各医療機関としっかりとした機能分担を行い、将来にわたり必要な医療を提供できるよう取り組んでいきます。

※1 地域の実情に応じた医療提供体制を確保するための地域の範囲。二次医療圏は、健康増進、疾病予防から入院治療までの一般的な保健医療を提供する複数の市町村にまたがる地域。
※2 釧路二次医療圏は、釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、白糠町で構成。

釧路二次医療圏の将来像

2025年を見据えた、地域の実情に沿った医療提供体制の再構築イメージ



※3 重篤な病状の方に、病状が落ち着くまでの高度な医療を行う機能。
※4 重篤な病状の方に、病状が落ち着くまでの医療を行う機能。
※5 病状が落ち着いた方に、在宅復帰に向けた医療を行う機能。
※6 病状が落ち着いた方が、長期にわたり療養を行う機能。

市立釧路総合病院の役割

地域医療の将来的な見通しも踏まえ、「地方センター病院」(※7)として以下の6つの柱を役割・重点項目とした病院機能の再整備を計画しています。

※7 高度・専門医療に対応できる医療機能を備え、地域の医療機関の後方医療機関としての役割を担う。



市立釧路総合病院では「信頼と満足創造」を基本理念とし、関係機関との連携を深めながら、地域住民に安全・安心な医療を提供したいと考えています。

今後、地域の将来の実情に合った医療提供体制について、釧路二次医療圏の関係機関が参加する調整会議で検討し、実現に向けて取り組みを進めます。

問合せ 市立釧路総合病院 事務部経営企画課医療計画担当（☎41-8167）